

横路福祉社会会報

〒七三七〇一三三
呉市広横路四丁目一四六
横路福祉社会
編集発行人
神垣 伸司
(0833)7118197

「コロナ禍と子どものストレス」

社会福祉法人 横路福祉社会

理事長 神垣 伸司

2年を超えるコロナ禍、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置、また日々のニュースで発表される陽性者数と死者などの情報に日本社会全体が震撼した。

横路保育所は、園児の陽性により2回にわたる臨時休園措置、また消毒作業等に追われ感染対策に気力体力とも費消され、防ぎようのない脱力感とストレスに襲われた。子どもから見れば、これまでの生活にコロナという何かわからないものに大人が不安を感じ、保育所は休みになったり、行事はなかったり、大人の社会ではたかが2年かもしれないが、子どもからすればすでに人生の1/2から1/3をコロナ禍で過ごしたことになる。これまでに、顔の表情からくみ取っていたすべてが、感染予防のためのマスクにより遮断され、散歩や公園に行くことも制限され、保育所内でもクラス単位での行動、給食は「会話なし」など制限ばかりの保育になってしまった。せつかくのおいしい給食も、無味であったに違いない。イライラとする姿が子どもの態度からくみ取れる。唯一よかったのは、登園自粛により、いつもの友だちと会えないことで、逆に新しい友だちと一緒にあそびができたことくらいしかない。

今も続くコロナ感染症。子どもたちの置かれた現状から、今後の成長にどう影響があるのかわからないが、せめて、保育所では自由にあそびせてやりたいものだ。去る5月末に、マスク着用は見直しがされ、外あそびではマスクの着用条件が緩和された。しかし、あいまいな内容にまた保育所は翻弄される。横路保育所は、今年で創設74年を迎えるが、お祝い行事は自粛しておくことにした。とにかく早い終息を願うばかり：クワバラクワバラ



令和3年度 事業報告書

1. 保育児童数の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
0才児	7	7	7	7	7	7	9	9	9	9	9	9	96
1・2才児	40	40	40	40	39	39	40	40	40	40	40	38	476
3才児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
4才以上児	57	57	57	57	57	57	57	57	57	57	57	57	684
計	134	134	134	134	133	133	136	136	136	136	136	134	1,616
開所日数	25	23	26	25	25	24	26	24	24	23	※19	26	290

※ コロナ感染症により3日間の休園

2. 一時保育利用者数(延べ人数)の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
3才未満児	57	38	65	67	44	75	81	83	70	39	39	75	733
3才以上児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7
計	57	38	65	67	44	75	81	83	70	39	39	82	740

3. 延長保育利用者数の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
(標)利用者	229	184	187	176	176	186	170	213	166	147	86	159	2,079
(短)利用者	7	25	6	6	7	9	9	9	6	4	5	15	108

令和3年度 社会福祉法人 横路福祉社会

単位:円

貸借対照表

令和4年3月31日

科目	金額	科目	金額
流動資産	49,937,643	流動負債	10,603,241
固定資産	158,630,108	固定負債	7,328,200
		基本金	9,325,625
		国庫補助金等特別積立金	27,814,935
		その他の積立金	87,950,000
		次期繰越活動増減差額	65,545,750
計	208,567,751	計	208,567,751

自 令和3年4月1日

収支決算書

至 令和4年3月31日

科目	金額	科目	金額
人件費支出	106,304,321	保育所運営費収入	140,208,095
事業費支出	17,357,161	受取利息配当金収入	86,957
事務費支出	5,740,443	その他の収入	1,734,260
その他の支出	2,340,492	施設整備等補助金収入	0
固定資産取得支出	8,620,000	積立資産取崩収入	349,600
積立預金積立支出	580,800		
当期資金収支差額	1,435,695		
計	142,378,912	計	142,378,912



令和4年度 第1回役員会・評議員会

去る5月26日役員会、6月16日評議員会を開催し、令和3年度の事業内容と事業決算について審議の上承認されました。
詳細(事業内容・財務諸表)はホームページ上で公開していますのでご覧ください。

令和3年度事業報告書

1. 事業の概要

- 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、保育内容や行事の見直しを迫られた。表情を伝えることのできないマスク保育は、子どもたちに影響を与えた。また、毎日の消毒等予防対策に全力を注いだ。陽性者の発生により2回の休園措置となるなど、ワクチン接種後も保育士・保護者とも不安な中での保育となった。
子どもたちの成長に必要な各種行事は、安全性をより確保できる事業の取捨選択と実施方法に工夫を凝らし、運動会や発表会は各クラス別、時間差で実施する等、例年とは異なる行事経験を通して自信や思い出作りに努めた。
特に、保護者の協力のもと徹底した体温管理、手洗い、うがいの実施や保育室の環境整備に努めた。体力向上のため、クラス別体操や園庭内のランニングを行った。年長児は、異年齢交流を中止としたが、クラス内での役割当番を決め、給食や掃除等のお手伝いを行うことで、自主性の醸成につながった。また、本に向き合う時間を増やすことで、数や字に興味を持ちチャレンジすることができた。また、ICTを活用して保育映像を配信するなど「見える化」を推進した。
絵本の読み聞かせは、各クラス毎に変更し、回数の増加やその方法に工夫を凝らした。国際大学生のボランティアによる食育に関する絵本会は、健康管理の事前確認の上、年長児のみを対象として開催する等、創造性の芽生えと集中力の養成に努めた。一方、保護者に対しては、在宅時間の有効活用のため、保育士の推薦する絵本だよりの発行や本の貸し出しを推奨し、家庭内で本と触れ合う機会を増やした。なお、感染症対策として、ICTを活用した読み聞かせ映像の配信、また、絵本の消毒や貸し出し期間の工夫を行った。
- 情報公開については、ICTを活用した「保育の見える化」を図り、公明正大な保育所運営に努めた。また、閲覧図書コーナーでは、義務付けられている公開文章をはじめ、個人情報には留意しながら保育所の自己評価や苦情内容等も公開している。
- 健やかな発育・発達のための食生活支援として、管理栄養士による園独自のメニューを組み、出汁は全てイリコや昆布の自然素材調理を実施している。年々増加傾向にある食物アレルギー疾患児童に対しては、医師や保護者と管理栄養士・調理員・保育士が連携して子どもの状況を的確に把握するとともに、写真付き除去確認票で確認する等、事故防止対策に努めた。
毎月の給食検討委員会で季節感のあるメニューの検討導入に取り組んだ。また、育ちの中での「食」への取り組み状況を保護者に伝え、保育所と家庭が一体となった子育てに力を入れてきた。



「子育て終了？」

保育士 的場 知美

私は、横路保育所に勤めて30年目になります。子どもが好きで保育士になり、横路保育所に就職。結婚、出産、子育てしながら、大好きな保育士という仕事を職場の同僚や家族の皆に助けられ、かわいい子どもたちの笑顔にたくさんのパワーをもらい、ここまで続けてくることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

一人娘は今年、成人式を迎え、社会人一年生になりました。自身の子育てを振り返ると、大きな声で「保育士ですから」と胸を張って言えるものではありません。子どもの力を信じようと思いつつ、つい口を出してしまったり、ああすれば良かったと思いつつも出来ず、悩み・反省の繰り返しだったように思います。

しかし、娘は保育所・学校で、家では出来ない経験をたくさんさせてもらい、先生や友だち、部活動の先輩後輩、バイト先の方など様々な人との出会いの中、悩み、努力し、喜んだり落ち込んだり…。もうダメかなと思うところから強くなり、親が見てもびつくりするくらい大きく成長していきました。出会った方々に感謝しかありません。とにかく子どもと話をすること、子どもを信じて、辛い時こそ見守ることの大切さを、子育ての中で学び、自分自身も少しずつ成長していったのかなと思います。

今となつては、親として悩んだことも娘と笑い話としてできるようになりました。あんなに悩んだことも子どもは全く気にしてなかった、なんてこともあったりしました。子育ての正解はまだ分かりませんが、こうして笑って話せているという事は、あの頃のあがきは無駄ではなかったのかもしれない。

娘も社会人になり、子育ても終わりかな？なんて寂しさを感じていたところですが、社会人一年生の我が娘、弱音を吐くことも多く、そんな気持ちをどう支えていこうか？親としての悩みはもう暫く続きそうです。まだ私の子育ては終わりではないんだなと嬉しいような…。年月が経ち、今の心境も、笑い話として話せる日が来ると思います。

私の子育て経験をお話しましたが、これからも子育て中の保護者の気持ちに寄り添える保育士でありたいと思います。



入園式

お散歩
トトロの森
と子ども
たちは言
ってます



いもうえ



交通安全教室



「日々成長！」

保育士 田中 優衣

短大卒業から今年で八年。過ぎる時間の速さ、自分より下にどんどん増えていく後輩の人数に、いつの間にか勤続年数で言えば中堅ともいえる立場になっていました。毎年、色とりどりに個性を持つ子どもたちに、いい刺激をもらっています。

保育士としての経験は重ねてきましたが、何かをする時は著しく緊張してしまう私です。しかし、いつだって頼りになる先輩、後輩保育士たちに助けられながら、様々なことに挑戦することが出来ていると感じています。

今年、私は年長クラスを二人で担当しています。三年前に、りす組（二歳児）で担当した子どもたちでもあります。子どもたちが話しかけてくれる姿、何かを作ろうと挑戦している姿、箸を使って食べる姿、文字や数字や時計を読んで、自分の名前を書く姿、お当番に責任を持って取り組む姿……生活の中のひとつひとつからめざましい成長を感じています。乳児期から幼児期、そして児童期へと羽ばたく成長めざましいこの時期に寄り添える保育士という職業は、なんて素敵だろうと思うばかりです。

今、『子どもたちの〈自主性〉を育もう』と話し合い、子どもたちがやってみたいことを聞き、それをやるためにはどうすればいいのだろうか？ということと一緒に考えながら、あお組全員で挑戦しています。子どもたちの発想に感心させられることばかりで、私も園児と共に成長させてもらっているなあ、と日々感じています。よりよい小学生へのステップの為に、コロナ禍でも楽しい一年となるように。これから保育所ならではの経験を一緒に楽しんでいきたいと思っています。

